



# 天使

## 初めての実習

看護学科3年 松浦 史絵



「松浦さんの受け持った患者さん、今も松浦さんが持っていた本を大切に読んでるみたいよ。」こんな素敵なお話を実習の時担当してくださった先生から聞いたのは、実習から半年以上が過ぎたある日でした。

私たちの「初めての実習」は去年の10月に2週間行われました。私が受け持てていただいた患者さんは、軽度の痴呆症があり会話がかみ合わないことがありました。私が様々なことを話してくださいました。その話の中から釣りが好きだったことがわかった私は、長期入院で変化のない毎日を過ごしていた患者さんに釣りの本を持っていきました。その本を手にとった患者さんは、釣りの話を沢山聴かせてください、殆どかけたことのない眼鏡を取り出してその本を真剣に読んでくださいました。

患者さんは、治療食を食べていたのですが、その中でどうしても缶詰の果物を食べることができないようでした。いつも皿の上に残されている果物を見て、私は「どうにか改善できないか」と考え、看護師さんや栄養士さんに相談してみました。その後、医師にもこの提案が相談され、週1回で生の果物が出ることになりました。食品成分表を持っていき、患者さんにどの果物なら摂取できるか質問し、夕飯にブドウが出ることになりました。次の日病院にきてカルテを見ると「ブドウ全量摂取」と記載があり、病室にとんでも行くと、患者さんの喜びの反応を見ることができました。

私は、まだまだ未熟で、知識も技術も乏しいですが、患者さんとコミュニケーションをとる中で患者さんのニードに気づくことができ、「看護」の喜びを知ることができました。こういう機会を与えていただいた病院のスタッフや先生にとても感謝しています。この実習はとても貴重な体験で、学びが深かったように感じています。私の「初めての患者さん」をこれから先も忘れる事はないと思います。ここでもらった力をこれから学びに生かしていきたいです。



## 大変だった給食管理実習

栄養学科3年 佐藤 由美



小中学校でなにげなく食べていた給食を作ることがこんなに大変だとは、給食管理実習を行って初めてわかりました。2年生の後期からグループに分かれて献立作成や試作会をし、3年生になって実習に入りました。新しい施設を私たちから使って、「厨房ツアー」で見たことのない大きな鍋や新しい機械を見て、実習への期待は大きく膨らみました。でも現実の実習は想像以上に厳しいものでした。

大量調理実習では「栄養士」と「調理員」の実習をそれぞれ2回ずつ行います。栄養士役の時には栄養価計算はもちろん、料理の作り方、作業工程作成、食材の発注・検収、リーフレット作成・アンケート集計、衛生管理などの作業をグループで分担します。どの仕事も責任あるもので、その中で私は食材発注・検収をおこなう「食品管理」と調理員の動きを決める「作業管理」を担当しました。初めての経験で戸惑うことばかりで、検収では食材の鮮度を確認したつもりでも、ダンボールの底に腐ったじゃが芋があって、後で先生が発見してくれたりして、細部まで注意して見なければ鮮度を確認したとはいえない実感させられました。また作業工程表も、何度も先生の元に通い食材を切る時間から盛りつけ・配膳の時間配分・人員配置に至るまで、何日も学校に残って考えました。1回の給食を作るのに2週間以上費やし、給食を作り終えた後は皆疲れてぐったりでした。でも自分たちが一生懸命頑張ったつもりでも、喫食者にあまり評価されず落ち込み、胃が痛くなったこともあります。調理員役では前日ミーティング以外に残ることはませんでしたが、自分の役割を把握しないと作業が遅れてしまうので、真剣になって質問しました。でも工程表通りの時間に作業が終わらないことも多く、開店時間が近づくととてもあせりました。

辛かった時もありましたが、同じグループの人たちの協力・思いやり、友人たちの励まし、先生方の厳しさ・たまにみせる優しさ・調理技術の素晴らしさ(包丁さばきの速さ)・笑顔&癒いやし等、多くの人に助けられ、支えながら実習が終わろうとしています。この実習で得たものはたくさんあり、忘れない貴重な体験だったと思います。とにかく給食管理実習に始まり給食管理実習に終わった3年前期でした。あー疲れた!!



# 7号館及び栄養学科実験・実習室の概要説明

2002年4月に、栄養学科の実習室を中心とした7号館が新築されました。  
今回は各階の実習室を中心に、栄養学科の先生たちに紹介をお願いしました。

## 1階 給食経営管理実習室について

栄養学科助手 吉田 真弓

1階には、給食経営管理実習室と実習食堂があります。給食経営管理実習室は、新カリキュラムの「給食経営管理実習」に対応させてHACCPシステムを取り入れた実習室です。学生が独立して食材の注文、そして調理、配膳までのすべての給食サービスをおこなう実習室です。特に衛生・安全管理面と作業管理面を重視しています。全室冷房完備で窓を開けないように設計されています。では、それぞれの実習室について説明をします。

〔準備室〕 実習室に入る最初の部屋です。ここで実習前の準備、実習前後の着替え、衛生検査の準備・結果確認等や実習生同士の打ち合わせを行います。

〔前室〕 ここで実習生は、アルコールで靴底を消毒した実習靴に履き替えます。そして鏡で全身の衛生チェックを行い、手を洗います。自動手指洗浄消毒機は、手を差しだすだけでお湯、石鹼、アルコールが出てきます。ペーパータオルの他にジェットタオルが設置されており、下調理室と主調理室の出入りの度に必ずこの前室で手を洗います。

〔下調理室〕 1回の実習生18~20名の約7割が、開始後まず食材の下処理を行います。下処理とは、野菜の皮むきと洗浄、冷凍魚貝類の解凍や洗浄等です。人は下調理室から主調理室へ直接行けませんが、洗浄された食材はバススルー冷蔵庫を通って

主調理室へ運ばれます。バススルー冷蔵庫の他に冷凍庫、包丁まな板殺菌庫、球根皮むき機、それぞれの食材に応じた洗浄シンク等が設置されています。

〔主調理室〕 大型調理機器として、スチームを入れながら加熱が行えるスチームコンベクションオーブンやプラストチラー（急速冷却機）があり、クックチルシステムにも対応できる設備を備えています。加熱器機が多い実習室ですが、空調完備により理想的な衛生・作業環境が保持されています。床は、最新式のサニタリーピット（排水溝）があり、下調理室とともに衛生的なドライシステムとなっています。

〔実習食堂〕 カフェテリア方式によるカウンター配食で毎回140食をサービスしています。その他、実習前後のミーティングの部屋としても使用しています。

(手前：実習食堂、奥：主調理室)



年月を経ても、機能、美しさが保てるよう、管理していくたいと思っています。



## 2階 臨床栄養実習室の紹介

栄養学科助手 佐藤 薫・鈴木 純子

臨床栄養実習室では、現在、調理の技術を身につける調理学実習、乳幼児期から高齢期まで、ライフステージに応じた栄養特性を学ぶ栄養学実習、病態の改善、回復を促進するための食事療法を学ぶ臨床栄養学実習などの実習が行われています。

実習室は広々とした空間を、オープンカウンターで調理作業スペースと試食室に仕切っています。試食室でデモンストレーションの後、調理作業スペースで調理をしてから試食、評価するという形の実習を、スムーズに進行できるよう工夫されたレイアウトとなっています。また、各調理台には業務用のガスレンジが設置され、家庭とは異なる強い火力が体感できます。業務用のガスオーブンも各台に設置されています。デモンストレーション台にはカメラの設置により、手元が大きくスクリーンに映し出され、後方の席からも見えやすくなっています。さらに、OHC、OHP、ビデオデッキが設置されており、パソコンの画像もプロジェクターに直接つなぎ、スクリーンに映し出すことができます。これらの機器を用いた様々な媒体による講義が行なわれています。

実習室で授業の行われていないときは、クラブ活動などに開放しており、学生が創造力を發揮する場となっています。天使祭では、模擬店準備など学生の活気にあふれ、実習室も大活躍でした。

## 3階 加工・実験・実習

栄養学科助手 岡部 哲子

7号館3階には、食品・調理実験室、官能検査室、測定室、講義室があります。

この3階だけが前期の授業ではまだ使用されていなかったため、学生は実習の日を心待ちにしていました。

### 〈食品・調理実験実習室〉

この明るく清潔な実習室で授業を受ける学生は、栄養学科3年生。後期スタートの食品加工学実習（新カリキュラムでは食品微生物学実習）は、食品の微生物培養や酵母の観察のほか、パンやヨーグルト、納豆などの製造を行い、微生物と食生活との関わりへの理解を深めます。また、ソーセージや缶詰、レトルト食品製造のための機器が、透明なカーテンの奥に備えつけられ、実習の日の出番を待っています。世界のスパイス・ハーブ・茶・穀類・豆類・いも類・でんぶん類、甘味料、添加物などの標本も充実し、実際に目で見ることで、原材料に対する关心が高まるように工夫されています。

### 〈測定室〉

測定室が実習室に隣接しているので、顕微

鏡観察や微生物の落下菌計測、食品の物性測定などは、即座に計測を行うことができ、とても機能的です。

### 〈官能検査室〉

静かな空間で正確な官能検査（食品の色、香、味、歯ざわりなどの品質特性を、人間の感覚を測定の手段あるいは測定の対象として用い、数量的に評価する方法）が行えるように、バネラーの席はブースで仕切られており、照明や換気も工夫されています。

（食品・調理実験実習室）



## 4階 栄養教育実習室

栄養学科助手 百々瀬いづみ

7号館の4階に新設された栄養教育実習室では、児童・成人・高齢者・妊婦など健康人を対象とし、個人・集団に適した栄養教育の手法を体験しながら学習しています。



実習室と廊下を隔てた向かいにあるカウンセリング室では、模擬

で披露したり、教育用ビデオを作成して、学外実習の際に活用するなど、視覚から楽しく栄養教育ができるよう、教育媒体の作成・活用などの学習も行っています。

実習室に隣接した第1臨床栄養実習室には介護用ベットを備え、病院や在宅など臨床現場におけるベッドサイドでの栄養指導の雰囲気を体験することができます。また同室には、安静時のエネルギー消費量の測定装置や身体活動量を測定する機器も数種備え、個人の身体活動状況を把握し、各人に適した食事量を算定することができる学習も行っています。

このような実習を経て、学生は実践力を養い、学外実習、そして栄養士・管理栄養士としての実務へとチャレンジしていきます。

（紙人形による栄養指導実習）



栄養指導の演習風景をビデオカメラで撮影し、実習室のテレビ画面上で「生放送」を見ることができます。カウンセリング室での演習は、人に見られていることを意識しそうずに練習ができる他、実際の現場の雰囲気を疑似体験できるなど利点があります。栄養指導演習の際には、外食弁当や野菜などが本物そっくりに作られた（でも本物よりずっと高価！）教育媒体などを活用することで、より実生活に即した栄養指導が出来るよう工夫しています。時には、指人形や紙人形で野菜や牛乳などを模倣した手作り媒体を使った寸劇を可動式の舞台上

## 4号館2階 理化学実験室・生理学実験室

栄養学科助手 岩渕絵里子

4号館2階には、理化学実験室・生理学実験室・微生物実験室などがありますが、学生実験では主に理化学実験室と生理学実験室を使用しています。

理化学実験室では、食品化学実験や食品衛生学実験などを行っています。これらの実験では、タンパク質・脂質・炭水化物などの一般成分分析、牛乳の成分の実験など実際に食品を用いて行っています。

一方、生理学実験室では、生化学実験や解剖生理学実験を行っています。ここでは主に、体の働きや仕組みについて学びます。実験内容としては、自分たちの血液や尿を用いて血糖値や比重などを定量したり、エネルギー測定をしたりしています。

こうした実験を通して、実験技術の習得はもちろんのこと、さまざまな食物の性質や体について学習していきます。



## 学食リニューアル

7号館の新築と並行して、校舎の改築が行われました。そのひとつが学生食堂です。これまで学生食堂はマリアホールに位置していましたが、改築に伴い、従来の給食管理実習室の場所があらたな学生食堂としてスタートしました。調理スペースが拡大したことにより、メニューも増え、学生たちはもちろんのこと教職員の利用でぎわっています。



## 学生課近況

学生課長 内山 昌子

今年度から学生課には、「良きに計らえ」が増えた。新しく学生部長となった田島忠篤教授の姿勢がそれ。ありがたいことに、「今年度は学生課の仕事を覚えて頂くため」と称し、課長がするべき仕事の大半をお願いしているが、快く、しかもテキパキと処理してくださる。年度始めには、突如学生部長が乗り込んで行くような勢いに、戸惑った方々もおいでのように見えたが、それも月日を経るごとに少なくなってきた（そう思いたい）。

天使祭が6月末に移動しての初年度。後援会からポンと百万円の助成があった。短期間の準備で革の会・実行委員

会のメンバーは、例年にも増して多忙を極めた。終了後のアンケートに「忙しい・頑張っているのは解るが、周りが見えてなさ過ぎる」とのキツイお言葉。「もっとも」と受け止めながら、駆けずり回っていた学生の身近にいた者として、つい短期間の準備を責任回避の理由にしたい気持ちを抑え切れなかった。天使祭終了後に後援会の理事会が開かれた。席上、援助金の効果を聞かれるのではと内心、気になったが、他の議論に集中しバス。用意していた言い訳「これと言った目ぼしい企画はなかったが、お陰様で広く薄く全企画をお金の心配無しに準備出来た事、学内外の飾りつけにかなりの予算と勢力を使い、一見盛り上がったかに見せられた事に感謝したい」が必要なかった。

本学ならではの企画として、願わくはアンケートにも見られたように、授業の学びを生かした企画が充実することを願っている。その意味では「健康相談」、専攻科の企画「1日お母さん体験」など好評だった事は嬉しかった。

# 図書館電算システム更新！

## 4月1日から稼動開始しました

図書課長 山本 敏子

昨年夏以来、館長はじめ課員が一丸となって種々検討を重ねてきました電算化システムの更新が承認され、着々と準備を進め4月1日から稼動が開始されました。

今までの図書館の電算システムは設置後すでに10年余り経過し、バックアップシステム作動に長時間を要し、閉館4時間前に業務を終了させなければならない状況で、一部手作業でカードに記入する等、利用者にこの上ない不便をかけておりました。しかし、4月1日からは、次のように、大変利用しやすくなりました。



### 本学図書館蔵書検索、貸出・返却業務

- \* 貸出・返却はすべてコンピュータで処理出来ます。
  - \* 所蔵目録検索（O P A C）一本学図書館の蔵書の情報を知ることができます。貸出可能か、何処の棚に配架されているかがわかり、容易に図書をさがすことができます。
  - \* 新着情報—新しく受入した図書一覧の検索ができます。
  - \* 利用者情報—利用者各自のI D番号で貸借中の図書、冊数、期限等が確認できます
  - \* 休館情報—土・日及び休暇中の開館情報が解ります。
- 検索用の端末も5台と増え、大変喜ばれています。



### 図書館利用のきまり

- ◇ 館内では静粛にし、他の利用者に迷惑をかけないようにしましょう。
- ◇ 館内に持ち込めるものは、筆記用具とノートのみです。コート・かばん等はロッカーを利用して下さい。
- ◇ 資料の貸出には図書館カードが必要です。
- ◇ 携帯電話等の電源は必ず切ってください。
- ◇ 館内での飲食物の持ち込みは禁止です。
- ◇ 資料は大切に扱ってください。

### 開館時間

月曜日～金曜日	9:00～20:00
土曜日・日曜日	10:00～17:00
長期休暇中など	9:00～17:00
祝日、本学規定の休日	休館

### 医学中央雑誌W E Bの検索方法

- \* CD-ROMからインターネット検索へ変更しました。もっとも最近の情報（事例、論文等）がどの雑誌、紀要に掲載されているのかを検索できるようになりました。



### 日曜日も開館開始

6月2日の日曜日（10:00～17:00）から土曜日開館に加えて日曜日も開館開始。

所蔵情報検索と閲覧、貸出・返却のみ利用できます。

日曜日ごとに利用者は増加しております。

このように利用方法が大変便利になったことと、いろいろな面で少しずつ改善がされてきたこともあります。入館者数、図書の貸出冊数も増加の傾向にあることは喜ばしいことと思っております。

今後の残された課題として、雑誌業務電算化の方法、レンタレンス業務の充実強化等があり、早急に取り組めるよう研修を重ね準備をしております。

利用者中心の種々のサービス向上を図ることにより、数々の貴重な資料が多くの方々に利用されてこそ図書館は生きてくると思います。活気あふれる、利用者に喜ばれる図書館を目指します。



### 貸出

図書館カードが必要です。

資料の種類	冊数	期限
図書		1週間
辞典類(禁帯ラベルのもの)	3冊	翌日の昼休みまで
CD・カセットテープ		1週間
ビデオテープ	学内で使用するものに限る	当日返却

### 返却

借りた資料は返却期限を守って返却してください。（図書館カウンター又は返却ボックスへ）返却に遅れると掲示板に氏名などを掲示しますので、至急返却してください。延滞者は、新たな貸出を受けることが出来ないので注意！

## 修養会について

栄養学科1年 一箭 とも子



4月24、25日に1年生にとって初めての修養会がA組B組合同で行われました。場所は、真駒内ハイツ北海道青少年会館で、内容は講演会、グループディスカッション、レクリエーションなどがありました。私は、この修養会が別名“出会いと親睦のゼミ”そのものであることを、この2日間で強く実感しました。同じクラスの、まだ話したことのなかった人やB組の人とたくさん話すことができ、また仲の良い友だちは、さらにお互いの内面を知ることができ、まさに“出会い”と“親睦”となりました。

1日目には講演がありました。小原先生の「愛」についての講話を聞いて、私は今までそんなに深く「愛」について考えたことはありませんでしたが、愛には様々な種類や形があることを知りました。また、愛情表現というものは人それぞれだと気づくことができました。「愛とは何か」という答えを出すことは難しいですが、たくさんの人々との出会いや経験の中で、少しずつわかっていていいかなと思います。シスター沢の講話では、何事も先延ばしにするのではなく、今やるべきこと、今しかできないことをしっかりと把握して、一日一日を過ごすことが大切だと思いました。

グループディスカッションでは、みんなの趣味や考え方を知って、改めて自分自身を見つめることができました。特に、先生の昔話が興味深く、とても楽しい時間を過ごすことができました。

レクリエーションのドッヂボールでは、優勝したこと（賞品が結構豪華でした）が嬉しかったし、何より2日間の中で一番みんなと仲よくなれた時間だったと思います。朝と夜のバイキングの食事も美味しい、とてもよかったです。

この2日間を通して、“人を思いやる心って本当に大切なこと”と心から思いました！

## 親睦のゼミでの出会い

看護学科1年 角谷 瞳



大学に入学してすぐに、親睦のゼミがありました。入学したばかりで、まだ学校に慣れていないかたし、周りの友達ともほとんど話したことがなかったので、これを機会に新しい環境に慣れ、早く落ちついた大学生活を送るようにと、不安と期待で胸がいっぱいでした。

初めはみんな緊張していて、話すときも少しぎこちなかつたけど、ゲームをしたり、自己紹介をしたりしていくうちに、互いに打ち解けあい、自然に話したり笑ったりしていました。

グループワークでは、みんなで意見を交わし合い、それぞれが思っていること、考えていることをひとつの絵にして表すことで、さらに相手のことを知り、親睦を深めることができました。グループごとに絵の描き方は様々でしたが、みんなが持っている目的や夢などは、やはりどこかでつながる部分があって、私はこれからその一員として、みんなと一緒に学び、大学生活をともにできることができとても楽しみになり、さらに期待で胸がいっぱいになりました。

そして、何よりも私の不安を和らげ、大きな期待と希望に変えていったのは、先生方の温かさでした。先生方が話すことの一つひとつが温かく、とても優しく感じられ、私の心に素直に入ってきました。その度に私は深く感動し、自分の心までも温かくなったように思いました。講話で話されていたことも、自分の考えを見直し、さらに成長させていくものとなり、これから自分がこの環境の中でたくさんのこと学んでいけるということに大きな喜びを感じることができましたし、改めて「天使大学に入学できて良かった」と、心の底から思いました。

この親睦のゼミで私が感じ、学んだことは数多く、これから私の原動力となる充実した2日間でした。

## 学 事 曆

4月2日	入学式	21日	合唱コンクール
3日	新入生オリエンテーション	6月28~29日	天使祭(大学祭)
4~5日	出会いと親睦のセミナー(看護学科1年)	7月13~15日	北海道地区大学体育大会
8日	前期授業開始	22日~	前期定期試験
17日	始業ミサ・イースターの集い 学生総会・定期健康診断	29日~	夏期休暇
24~25日	出会いと親睦のセミナー(栄養学科1年)	8月20日~	国際交流(オーストラリア研修)(~9月4日)
5月15~16日	修養会(短大専攻科)	9月9日	後期授業開始
		26~27日	修養会(栄養学科2年)

## 3年間の天使祭を 終えて

栄養学科3年 稲葉 久子



第49回天使祭が終わりました。今年の天使祭は、みなさんにとてどんな学祭になりましたか? “楽しかった、不満だった”それぞれ自分の中に残った感想はそれぞれだと思います。私が感じる天使祭の印象を話していきたいと思います。

楽しい学祭を作るために、なるべく学生の意見を聞いてまとめようとしていますが、全てを聞き入れることはなかなかできません。その立場になった時、何を優先しなくてはいけないのか、自分の判断で決定していくかなければいけない難しさ、また判断できる力が必要なってきます。また、自分の出した判断で、中にはその決断に納得しない人も出てきます。その時に一番感じるのが、自分の言った意見に責任を持つということです。反対する意見に自分の考えをまとめて、納得してもらえるように相手に説明しなくてはいけなく、またその時にも相手の立場になっても考えていかなければなりません。自分の意見を言うだけでは、納得はしてくれないし、また何の問題解決にもなりません。今回このようなことが、幾つかあり本当に自分の責任というものを大きく感じた学祭でした。また、同時にこのようなことを通じて、自分の責任感を改めて知らされた機会だったので、とてもいい経験になったと思いました。たくさんの方に今回の学祭を通してご迷惑をおかけしてすみませんでした。

私は葦の会として学祭に関わるのは今回で最後だと思うので、最後にひとつ勝手な意見を聞いてください。葦の会が大抵の事を決めていますが、その元となるのは学生の意見なのです。自分がどのような学祭をしたいのか、そのためにどんなことをしたらいいのか考えてください。決められたことに、文句を言ったり、学祭を楽しくないと言うだけではなくて楽しむためにどうしたらいいのか、受身の態勢ではなく何かを自分で考えてほしいです。そうすると、学祭も今以上に楽しめる物になると思います。来年はそれぞれの学祭を作ってください。楽しみにしています。

(葦の会副会長)



(模擬店)

## 天使祭のあとで……

看護学科1年 工藤 育子



私は、第49回天使祭の企画を担当しました。葦の会役員になってから約3ヶ月、1年生の私にとって、不安だらけの天使祭でした。

全てゼロからのスタートで、どうしたらみんなで盛り上がるのだろう、もっと良い方法はないか…と、とても必死になっていました。

今、天使祭が終わって、たくさんの反省しなければならないところも残っていますが、各クラスの実行委員と、それぞれのイベントに参加してくださった学生の皆さん、先生方にはとても感謝しています。

今までの私には、このように自分の責任で仕事を進めていくという経験があまりなかったので、「学祭なんて誰かがやればいい」と、思っていました。けれど、その「誰か」の立場になってみて、どんなに大変なことなのかがわかりました。連日のように夜遅くまで学校に残り、土曜、日曜も関係なくみなさんが楽しめる天使祭にするために準備していたことを知っていますか?

何をするにしても、自分たちが楽しみたいと思うのなら、まずは自分たちから動き出そうとしてみてください。そして、それがだめになってしまってから初めて文句をぶつけてください。何もしないまま、誰かがやってくれる…なんて考えていたら、前には進めなくなってしまいます。

今回、私は天使祭を表から見ていません。というのも、体育館イベントの責任者だったため、常に裏側だけを見ていました。だけど、それはとても貴重な体験だったと思います。苦労して作り上げたイベントをみんなが楽しんでくれた笑顔を見ることができたからです。もしかしたら、天使祭を一番楽しんでいたのは、私のかもしれません。

けれど、そのように楽しめるのは、誰かがどこかで頑張っていたからです。どうかそのことは忘れないでいてください。

最後に、企画担当の二人の先輩に感謝します。どうもありがとうございました。

(葦の会監査)



(健康相談)

### COLUMN 花のある風景

本学を訪れた短大時代の卒業生を学内案内していた時、「あちこちに花が飾られているのは昔と同じですね」と言われました。このことは卒業生だけでなく、初めて本学を訪れた方が本学の印象として語られることの一つです。正面玄関や学生玄関のマリア像や廊下の片隅に財務課のSさんがいつも絶やさず生花を飾ってくれています。また、校舎の中だけでなく、校舎の周りもKさんやYさんが丹精こめて育てた花々が、春から秋にかけて私たちの目を楽しませてくれています。

この原稿を書いている日の正面玄関の花は、白のトルコキキョウと青いスターチスでした。ふと立ち止まって花を眺めるとき、心にゆとりを持つことの大切さを教えられるようです。

(S.Y.10月10日記)



教養ゼミ

北海道新聞  
2002年9月11日(水)  
掲載

2年生を対象とした「教養ゼミナール」は、人文科学・社会科学・自然科学に関する教養を高め、またゼミで相互の人間関係を深める目的のもと開講されています。

今回、片桐千明教授のゼミが、新聞に掲載されました。



い駄い上精ン潤生用

夏忍路

## 命の尊さ学ぶ

## 「実験所」に臨海学習次々と

# ウニの受精を観察

ANSWER

## 就職委員会より

栄養学科講師 黒川 正博

あと1年少々で本学の1期生が卒業します。私たち委員会のメンバーは、卒業生の全員就職内定を目指して活動を行っています。2002年度は、「就職ガイドブック」の配布を始めとして、学年にあわせた就職ガイダンス、隔月発行の「就職相談室ニュース」、公務員模擬試験や各種資格の説明会など、就職活動に必要と考えられる様々な取り組みを展開しています。

また、委員会だけでなく、全学が協力して学生たちをサポートしています。今後の活動に関して要望や意見などをどんどんお寄せください。（就職委員会委員長）



新しくスタッフになりました

(新任教職員)

<b>看護学科</b>	深沢華子	教授	健康生活看護学 II - 1
	松谷美和子	教授	健康生活看護学 I - 2
	仲田みぎわ	助教授	健康生活看護学 IV - 1
	針金佳代子	講師	健康生活看護学 II - 1
	吾妻知美	講師	基礎看護技術論 II
	園部真美	講師	健康生活看護学 I - 2
	平山さおり	助手	臨地実習（地域）
<b>栄養学科</b>	土門恭仁子	教授	臨床栄養学 I
	黒川正博	講師	臨床栄養学実習 II
<b>事務局</b>	鈴木敏郎	事務局教務課員	
	渡邊泰央	事務局総務課員	

## お世話になりました

(退職教職員)

看護学科	尾坂良子	教授
	大西由希子	助教授
	今崎裕子	助手
事務局	小畠美紀	事務局総務課員

編集後記

当初9月発行を予定していた第4号でしたが、発行が大幅に遅れたことをここに記してお詫び申し上げます。またお忙しいなか原稿を寄せていただきありがとうございました。

開学3年目を迎える、学内はもとより学外での実習等が本格化し、学生や教職員の活動は密度の濃さを増しています。今回はその一端を紹介するべく内容編集を試みましたが、いかがでしたでしょうか。読者の皆様からのご意見などをお待ちしております。(広報委員会 山部・青木)